◆平成 29 年度優秀映画鑑賞推進事業

溝口健二傑作選

35ミリフィルムで蘇る 名匠・溝口健二の世界

西鶴一代女

(1952年 新東宝＝児井プロ 137分)

田中絹代　三船敏郎　宇野重吉　ほか

12月1日(金)10:30

12月3日(日)14:00

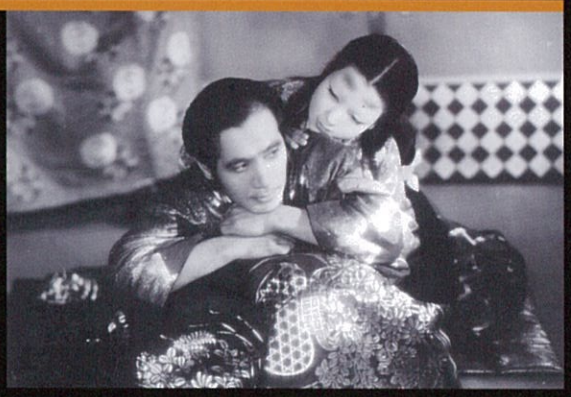
雨月物語

(1953年 大映 97分)

京マチ子　田中絹代　森雅之　ほか

12月1日(金)19:00

12月2日(土)10:30



山椒大夫

(1954年 大映 124分)

田中絹代　花柳喜章　香川京子　ほか

12月1日(金)14:00

12月2日(土)19:00

近松物語

(1954年 大映 103分)

長谷川一夫　香川京子　南田洋子　ほか

12月2日(土)14:00

12月3日(日)10:30

茨木クリエイトセンター・センターホール

■主催：公益財団法人茨木市文化振興財団／文化庁／東京国立近代美術館フィルムセンター
■特別協賛：木下グループ
■協力：株式会社オーエムシー
■後援：茨木商工会議所／茨木市観光協会

関西から 文化力 POWER OF CULTURE

木下グループ

「優秀映画鑑賞推進事業」とは、広く国民の皆様に優れた映画を鑑賞していただくとともに、映画保存への理解を深めていただくことを目的に、文化庁と東京国立近代美術館フィルムセンターが、日本各地の文化施設と連携・協力して、所蔵映画フィルムを全国の会場で巡回上映させる事業で、平成元年度から実施されています。

茨木市文化振興財団では、日本映画を代表する溝口健二監督が、1950年代に世界の映画祭で絶賛を博した時代ものの名作4作品を上映いたします。35ミリフィルムで蘇る、名匠・溝口健二の世界。クリエイトセンター・センターホール大スクリーンでお楽しみください！

◆西鶴一代女　[1952年　新東宝＝児井プロ]

（白黒／スタンダード／モノラル137分／第26回キネマ旬報第9位）

田中絹代　三船敏郎　宇野重吉　ほか

原作は井原西鶴の「好色一代女」である。原作の女主人公は、生来の好色から数奇な男性遍歴を重ね、封建制度の下で自由奔放な性を謳歌する女性として描かれている。映画化にあたって監督の溝口健二と脚本家の依田義賢は、女主人公の自己主張や被害者意識を極力排し、男性本位の都合で不思議な一生をたどってしまう女を、客観的に凝視する手法で描いている。社会の底辺で生きている女は、ふと入ったお寺の五百羅漢を見ているうちに、過去に出会った男達の顔を次々に思い浮かべる。そこで生まれた悲喜こもごもを静かに回想し終わると、女は何処ともなく闇の彼方へ去っていくのだった。国内では「キネマ旬報」ベストテン第9位の評価だったが、『羅生門』(1950)がグランプリを得た翌年のヴェネチア国際映画祭で国際賞を受賞、以後この作品は「お春の一生」の題で日本映画を代表するようになり、フランスをはじめとする欧米各国で溝口監督は神格化されることになった。

◆雨月物語　[1953年　大映]

（白黒／スタンダード／モノラル97分／第27回キネマ旬報第3位）

京マチ子　田中絹代　森雅之　ほか

上田秋成の短篇「浅茅ケ宿」と「蛇性の淫」を原作に、欲望と幸福、戦争と平和といった、いつの時代にも通じる普遍的な主題を、戦国時代の二組の夫婦を通じて対照的に描いた作品だが、ここにはリアリズムだけでは律しきれない溝口健二監督の美学が明瞭に表れている。霧に覆われた湖を行く船や朽木屋敷の描写、森雅之扮する源十郎が故郷の家に帰ってからの場面などに、独特な様式美を感じとることができる。この幻想性は溝口監督生来の資質の一つであり、戦前は、『日本橋』(1929)や『滝の白糸』(1933)など泉鏡花の作品を盛んに手掛けた事実もある。冷徹なリアリストを支えている柱が、洗練された美意識であることを如実に教えてくれる作品であり、やはり溝口監督は日本映画を代表する「美と残酷」の映画作家と言えよう。艶のある画面を作り出したカメラマン、宮川一夫の功績も見逃すことはできない。

◆山椒大夫　[1954年　大映]

（白黒／スタンダード／モノラル124分／第28回キネマ旬報第9位）

田中絹代　花柳喜章　香川京子　ほか

溝口健二監督が、森鷗外の短篇小説を原作に中世荘園の奴隷制度における悲劇をリアリスティックに描き、ヴェネチア国際映画祭で『雨月物語』に続く二年連続の受賞に輝いた力作。原作では、姉安寿と弟厨子王は子どものままであるが、映画では成人してからの二人に重点が置かれるとともに、香川京子、花柳喜章という配役から、安寿を妹、厨子王を兄と設定を変えている。そもそも八尋不二による脚色は原作に忠実なものであったが、溝口監督の意向を受けた依田義賢が改訂にあたり、奴隷制度や奴隷解放といった社会的側面が強調されるシナリオになったという。とはいうものの、佐渡に売られ盲目となった母玉木を厨子王が捜し求めるという展開は、やはりこの監督特有の「母恋いもの」のモチーフと言えるだろう。宮川一夫の絶妙なカメラによる美しいシーンが随所に見られ、その乾いた画調には鬼気迫るものがある。

◆近松物語　[1954年　大映]

（白黒／スタンダード／モノラル103分／第28回キネマ旬報第5位）

長谷川一夫　香川京子　南田洋子　ほか

1952年に『西鶴一代女』で世界的注目を浴びた溝口監督は、『雨月物語』と『山椒大夫』によって翌53年、54年と相次いでヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した。日本の古典文学を題材にして秀作を発表し、独自の様式美をもって世界的名声を獲得した溝口は、今度は近松門左衛門の人形浄瑠璃「大経師昔暦」を映画化することになった。この原作は、歌舞伎では「おさん茂兵衛」として知られているが、それに井原西鶴の「好色五人女」から「おさん茂右衛門」の話を付け加えている。商家に嫁いだ若妻が、わがままで好色な夫を諌めるために芝居を仕組むが、ちょっとしたはずみから使用人との不義密通の汚名を着せられ、のっぴきならぬ状況へと追い込まれてしまう。しかし二人はその逃避行の中で真実の愛に目覚め、捕まって処刑場におもむく彼らの表情は晴れ晴れとしたもので、その毅然とした態度は見物の人々を驚かせる。

	12月1日（金）	12月2日（土）	12月3日（日）
10：30	西鶴一代女　10:30〜12:47	雨月物語　10:30〜12:07	近松物語　10:30〜12:13
14：00	山椒大夫　14:00〜16:04	近松物語　14:00〜15:43	西鶴一代女　14:00〜16:17
19：00	雨月物語　19:00〜20:37	山椒大夫　19:00〜21:04	

※開場はいずれも上映の30分前

茨木市市民総合センター（クリエイトセンター）センターホール　茨木市駅前四丁目6番16号　☎072-624-1726

[全席自由・日時指定]　各回５００円　＊就学前のお子様はご遠慮ください。

9月7日（木）9:00予約開始　財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。初日の電話予約は１回につき６枚まで。

■チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係　072-625-3055（9:00〜17:00）

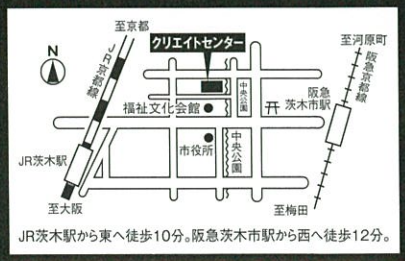
インターネットチケット　www.ibabun.jp

予約後は下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売（残席がある場合）は発売翌日からです。
なお、本公演は公演当日のご精算もお受けします。各回上映30分前からです。
また、残席がある場合は各回上映の30分前から当日券を販売します。

◎クリエイトセンター1階チケットカウンター（9:00〜17:00）　◎福祉文化会館3階チケットカウンター（9:00〜17:00）

＊インターネット予約については、コンビニ（セブンイレブン、サークルK、サンクス）でご精算・受取いただけます。（要手数料108円）

＊予約チケットの郵送をご希望の場合は、**〈チケット料金＋郵送手数料400円〉**を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。
手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。**〈払込口座〉00970-7-190576／加入者名：茨木市文化振興財団**



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩12分。